

平成26年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- (1)自分と他人を大切にす豊かな心を育てる。 (2)確かな学力を身につけさせる (3)良い生活習慣を身につける
心身ともに健康な生徒を育てる。

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育充実の取組を促進し、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 校種間連携の取組を促進し、滑らかな成長を推進する	3.5	3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の設定と年度当初に年間授業時数を明示し意識改革を図る。 ・校内での公開授業を活発化するとともに授業改善アドバイザー等を積極的に利用したので授業改善に繋がった。 ・水曜放課後、テスト前チャレンジを実施して学習時間が増加した。 ・家庭での学習時間増加に向けて、宿題点検等の指導強化を図り、保護者に便りや機会あるごとに家庭学習の充実を啓発した。 ・数学、英語で少人数指導やTT授業により、生徒が存在感、充実感のある授業実践を心がけたので、どの生徒も授業には参加出来た。 ・特別支援委員会やケース会議で情報交換等を行い、職員会議等で全教職員の共通理解を図ったのでスムーズに学級経営が出来た。 ・小中で道徳や教科授業の相互参観、出前授業や夏季合同研修、小6児童クラブ体験を行い連携の意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に総授業時数を示す習慣がないため、システムが理解し切れていない。更に啓発が必要である。 ・放課後学習等の補習に参加する生徒が少ないので各学級、教科担当との連携を図る。 ・少人数授業を実施しているが、点数向上の成果が見られない。又、次年度への検証が不足していることでより一層の意識改革を啓発する。 ・特別支援学級生徒の情報等は共有出来てきたので、特別な支援が必要な生徒へも拡大する。 ・生徒指導や道徳、クラブ活動を中心に小中連携が進んだが、各教科での連携も進めたい。 	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、良好な人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、問題行動の未然防止を図る (3) 相談体制充実の取組を促進し、不適応行動への早期対応及び長期欠席の改善を図る (4) 進路指導充実の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	3.5	3.5
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいた道徳の充実や実践事業研究参加を積極的に行ったので、意識改革が進んだ。 ・年2回の教育相談を計画的に行い、問題行動の事前把握が出来た。 ・生徒指導委員会、不登校委員会等の会議の統合を行い生徒と向き合う時間が増えた。 ・「進路ノート」の活用などを計画的に行い、進路についての意識が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳については、来年度の阪神大会に向けての準備をしているが、まだ全員の教員に意識が浸透していない。 ・進路指導が進学指導のみであると認識している教員が多い。このため、進学指導が含まれる3年生だけに偏りがちであるので機会あるごとに意識改革を図る。 ・SCとの連携が進んだが、より一層進める。 ・不登校生への別室指導、対応に限界が来ており、来年度の統一した方針が必要である。 	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3.5
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
・4月職員会議で食育推進通知や食育全体計画、市の施策等を提示し説明することにより、職員への意識付けを図った。 ・教科体育の充実と体育的行事を全教員で取り組むことにより運動量が増えた。 ・保健だより発行を行う意識付けを図る。 ・スポーツテスト結果を生徒にカード等で還元し体力向上についての意識付けを図った。 ・クラブ通信発行や外部指導者の活用によりクラブ活動をより一層活性化してきた。	・食育への関心は、養護教諭と家庭科教員以外にはなかなか浸透しない。 ・保健だよりの発行が進んだが、学級指導に充分いかしきれていないので啓発活動を強化する。 ・クラブ数は増加したが、複数顧問での連絡調整の時間が不足している。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3	3
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育充実の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
・登校指導は、正門前だけでなく周辺まで行うことによりトラブルが減った。 ・月末の安全点検実施により、危険箇所の把握が確実に進み安全性が増した。 ・朝礼や集会、学活での安全指導を行うことにより意識付けが増した。 ・年2回の防災訓練実施の際、事前事後指導を充実することや関係機関との連携を深めることにより自らの安全意識が増した。	・安全点検後の修理や修繕で校務員等が出来ない場合の処置、修理に時間がかかる。 ・安全指導に関しては、講話形式が多いので実感がないようであるので体験型も取り入れる。 ・関係機関と学校行事の調整が難しい。	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.5	3.5
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力向上を図る (2) 地域資源活用の取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る (3) 学校評価活用の取組を促進し、学校運営の改善と発展を図る		
取組とその成果	課題と改善策	
・研究推進委での研修計画実施したので研修意識が増した。 ・ICT使用でより一層業務改善をする意識が増した。 ・各種研修会、研究会参加奨励をする。 ・教育雑誌や教育施策に関する情報等を文書で職員に通知することにより視野が広がってきた。 ・若手教員の増加により、若手教員校内研修計画を実施したことによって向上意欲が増した。 ・個別面談を年間2回以上行う事によって教員理解が進んだ。 ・教育活動の公開や学級、学年、学校、クラブ便りの発行、ホームページ更新、PTAメール配信を更に活発にすることにより関心が増した。 ・学校評価を職員へ通知し、学校運営の一助とすることにより参画意欲が増した。	・研修、研究は若手教員中心となっており、一部ベテラン教員の意識改革が不足しているためより一層教育的時事記事を配付して意識改革を図る。 ・個々のICT使用は普及してきたが、校務ファイルの整理が出来ていないので情報担当を中心に利用促進する。 ・個別面談では、ベテラン教員等の運営参画意識を向上させようとするが、前向きなアイデアがでないため若手登用を図る。 ・便りやHP更新は目標に達したが、アクセス数表記により、成果が明らかになる。より一層の充実を図るため作成人を複数とする。	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3.5
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼等の機会を通じて、職員や生徒に通知することにより意識付けが増した。 ・学校たよりや保護者会など機会あるごとに教育目標、目指す生徒像を示す事により意識が増した。 ・指導の充実には、振り返りと改善が必要である。常に、指導後の改善策を考慮するように啓発し意欲向上を図った。(前例踏襲より新しいアイデアを奨励する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼の題材は事前に配付し、学級指導等に利用できるようにする。 ・若手、ベテランが多く、ミドルリーダーの不足のため新しい動きに繋がらない。このため思い切った若手登用を図る。 		

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	3
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会を軸に、共通理解や方策を検討することにより研究意識が高まった。 ・自ら学ぶ意欲を持たせるために分かりやすい授業や指導法の工夫をテーマに授業実践し、校内で公開授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究、研修は若手教員に偏り、ベテランの率先垂範がないので主幹教諭をより一層活用する。 ・研究を推進する強力なミドルリーダーがいないので、育成又は補強する。 		

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策		